

CDPとSDGs

環境省 グッドプラクティス塾

2021年11月10日

CDP Worldwide-Japan

アソシエイト・ディレクター 榎堀都



CDPとは



CDPは2000年に英国で設立された**国際的な環境非営利団体**であり、「人々と地球にとって、健全で豊かな経済を保つ」ことを目的に活動しています。



その目的の達成に向けて、CDPは**投資家、企業、自治体**に対して働きかけ、それぞれの**環境インパクトに関する情報開示**を促しています。



CDPの情報開示システムは世界経済における**環境報告のグローバルスタンダード**となっており、企業や自治体の環境インパクトに関する**世界最大のデータセット**を保有しています。



世界中の投資家、購買企業、政策決定者は、CDPに集められた情報を活用し、データに基づいた意思決定を行っています。

CDPの活動



CDPのミッション・ビジョン

・長期的に地球と人類に繁栄をもたらす経済発展を望んでおり、そのために、投資家、企業、そして都市が、環境への影響を測定し理解することによって、真に持続可能な経済を築くための緊急の行動をとるよう活動している。

CDPの活動

世界経済はCDPを企業と都市の活動に関する最も豊富で包括的なデータセットを備えた環境報告のゴールドスタンダードと見なしている。環境報告をメインストリームにし、安全な気候、安定的な水供給、持続可能な森林のために、必要な緊急行動を推進するための詳細な洞察と分析を提供することを目指している。

CDPは2000年にロンドンで設立した国際NGO

グローバルな活動拠点

(ロンドン、ベルリン、ニューヨーク、東京、サンパウロ、ニューデリー、北京、香港)

投資家
政府機関
大手購買企業

情報



回答

企業

依頼

質問書

CDP署名投資家



2020年、投資運用総額**106兆米ドル超**、**515**を超える投資家
2021年には署名投資家数は**590**を超える

日本の署名投資家(19機関)

MS&ADインシュアランスグループホールディングス

日本政策投資銀行

SOMPOホールディングス

大和証券グループ本社

東京海上アセットマネジメント

東京海上日動火災保険

日興アセットマネジメント

ニッセイアセットマネジメント

農林中央金庫

野村ホールディングス

富国生命投資顧問

みずほフィナンシャルグループ

三井住友DSアセットマネジメント

三井住友トラストアセットマネジメント

三井住友フィナンシャルグループ

三菱UFJ信託銀行

三菱UFJフィナンシャル・グループ

りそなアセットマネジメント

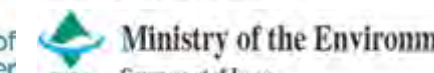
住友生命

CDPサプライチェーンメンバー

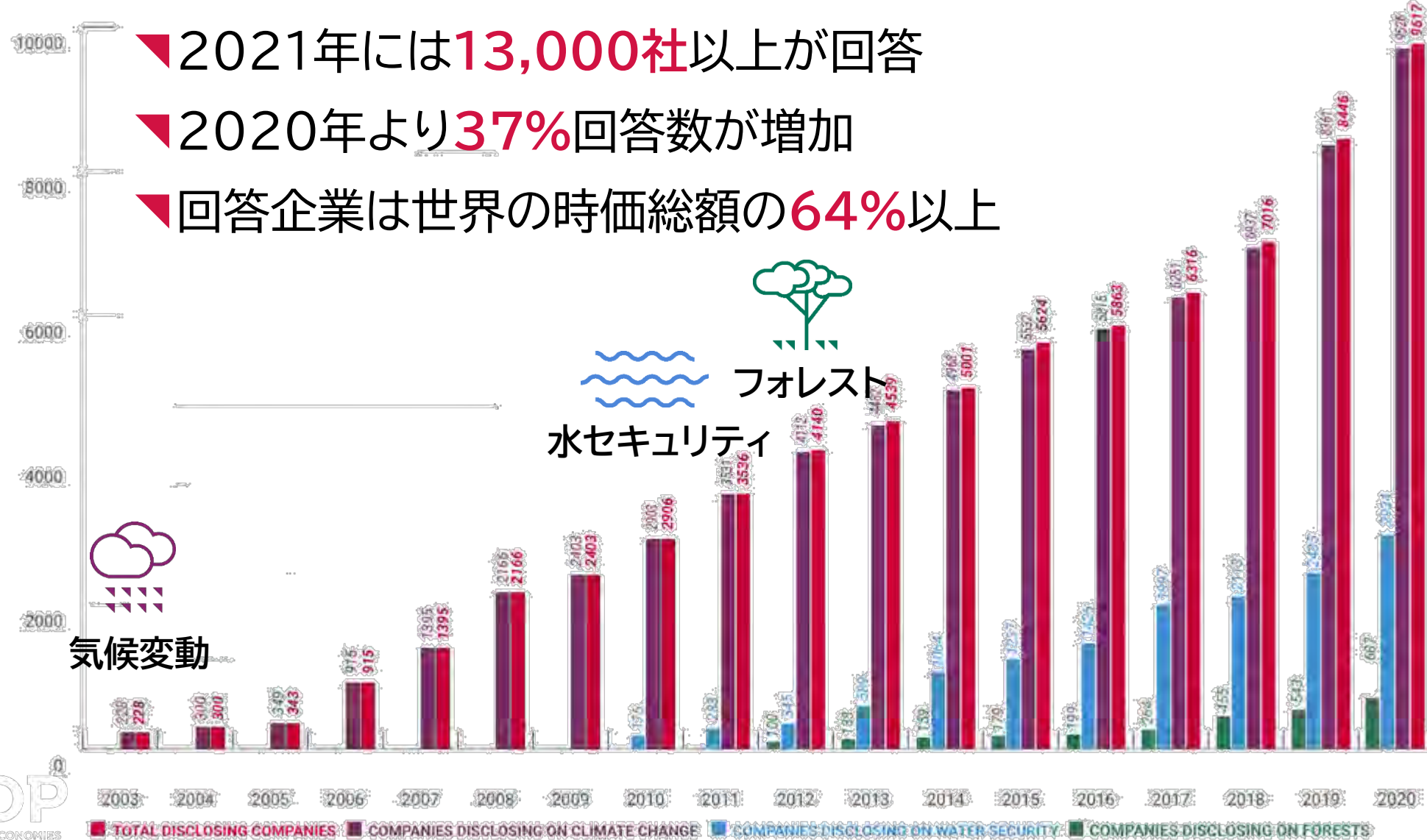
2020年→2021年 200+社に拡大 (日本は13機関) 対象企業は20,000社+



DISCLOSURE INSIGHT ACTION

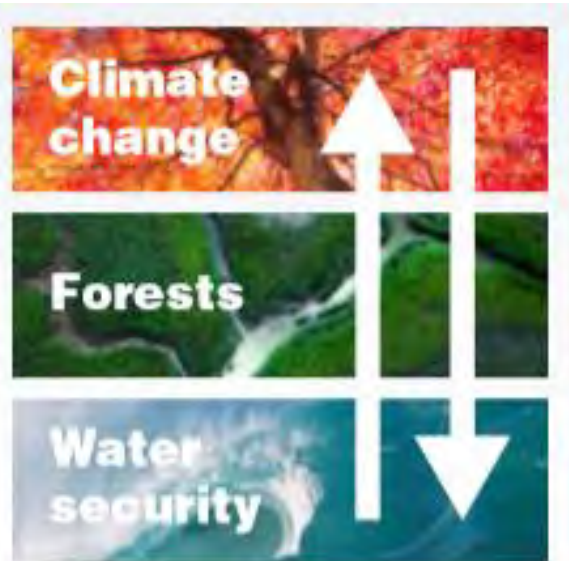


CDPを通じた企業の情報開示状況



CDP質問書の構成

複数分野の一貫性



各セクターに対応



TCFD提言との整合性



CDP質問書の内容

気候変動



【主な質問】

- ガバナンス
- リスク・機会
- 事業戦略
- 目標と実績
- 排出量算定方法
- GHG排出量
- 排出量詳細
- カーボンプライシング
- エンゲージメント(協働)

水セキュリティ



【主な質問】

- 現状
- ビジネスへの影響
- 手順
- リスクと機会
- 施設別水のアカウンティング
- ガバナンス
- ビジネス戦略
- 目標

フォレスト



【主な質問】

- コンテキスト
- トレーサビリティ
- ターゲット・認証基準
- リスクと機会

<森林減少に関する4つの
コモディティ>:

木材、パーム油、牛製品、大豆(+
天然ゴム、ココア、コーヒー)

TCFD(気候変動関連財務
情報開示タスクフォース)の
提言に沿った質問内容

SDGsとCDP開示

CDP のデータは、6 つの SDGの66指標をカバーしている



SDGsとCDP開示

▼ 環境関連の93指標の77%は、進捗の査定ができる十分なデータが揃っていない*

⇒ CDPデータはSDG進捗を測るためのギャップを埋める

* Measuring Progress - Towards achieving the environmental dimension of the SDGs, UNEP

▼ 一般に公表されている情報からは、既に行動に移されているものしか把握できない

⇒ CDP質問書は、Yes/No以上の回答を要請している。「行動しない理由」、「いつ行動する予定か」を理解できる。

▼ SDGへのアプローチの背景が理解できる

⇒ CDPデータは、質的・量的なデータを備えており、企業の取組みやトレンドをより良く理解できる。

▼ SDGの目標・指標間の関連性を確認できる

10 ⇒ 異なる SDGs同士の結びつきが示され、取り組む上で得られる潜在的な相乗効果が強調される

CDP質問と密接に関連しているSDGグローバル指標



SDG グローバル指標	
6.1.1	安全に管理された飲料水サービスを利用する人口の割合
6.2.1	(a)安全に管理された公衆衛生サービスを利用する人口の割合(b)石けんや水のある手洗い場を利用する人口の割合
6.4.1	水の利用効率の経時変化
6.4.2	水ストレスレベル：淡水資源量に占める淡水採取量の割合
6.5.1	統合水資源管理（IWRM）の度合い
6.6.1	水関連生態系範囲の経時変化

CDP水セキュリティ質問書



2021 モジュール	主な内容
W0 イントロダクション	会社の概要、報告年、通貨、バウンダリ
W1 現状	水の依存度、水のアカウントティング(水のモニタリングの割合、取水量・排水量・消費量の合計値、水ストレスの大きい水域での取水量、リサイクル・再生水の割合)、バリューチェーンでの協働
W2 事業影響	報告年における水による事業への影響、水規制違反により受けた罰則
W3 手順	水リスクの評価方法の手順・考慮される要素
W4 リスクと機会	水リスクのある施設数・内容等、水関連リスクと対応、水によりもたらされる機会
W5 施設レベルの水会計	水リスクのある施設レベルの水に関するデータ
W6 ガバナンス	水関連方針、マネジメントの責任、政策への関与と整合
W7 事業戦略	事業計画、設備投資費/操業費、シナリオ分析、ウォータープライシング
W8 目標	水関連目標と達成に向けた進捗
W9 検証	水情報に関する外部検証
W10 承認	回答承認者の情報

SDGグローバル指標に関連するCDP質問（例）



CDP質問	質問内容	SDG指標
W1.2	「適正に機能し安全に管理された上下水道・衛生（WASH）サービスを全従業員に提供」という観点について、どの程度の割合を定期的に測定・モニタリングしているか。	6.1.1, 6.2.2
W1.2b	取水、排水、水使用の各量と前年との比較	6.4.1
W1.2d	水ストレス下にある地域からの取水割合	6.4.2
W3.3b	水関連のリスク評価で考慮している要素。「生態系および動植物生息環境の状態」、「全従業員が、適正に機能し完全に管理された上下水道・衛生（WASH）サービスを利用できること」	6.1.1, 6.2.2, 6.6.1
W3.3c	水関連のリスク評価で考慮しているステークホルダー。「従業員」、「地域社会」、「河川流域/集水地におけるその他の水利用者」など。	6.1.1, 6.2.2, 6.6.1
W5.1	水リスクにさらされている施設の取水、排水、水使用の各量と前年との比較	6.4.1
W6.1, 6.3, 7.1	水に関する方針、ガバナンス、戦略	6.5.1

水ストレス下にある地域からの取水割合（W1.2d）

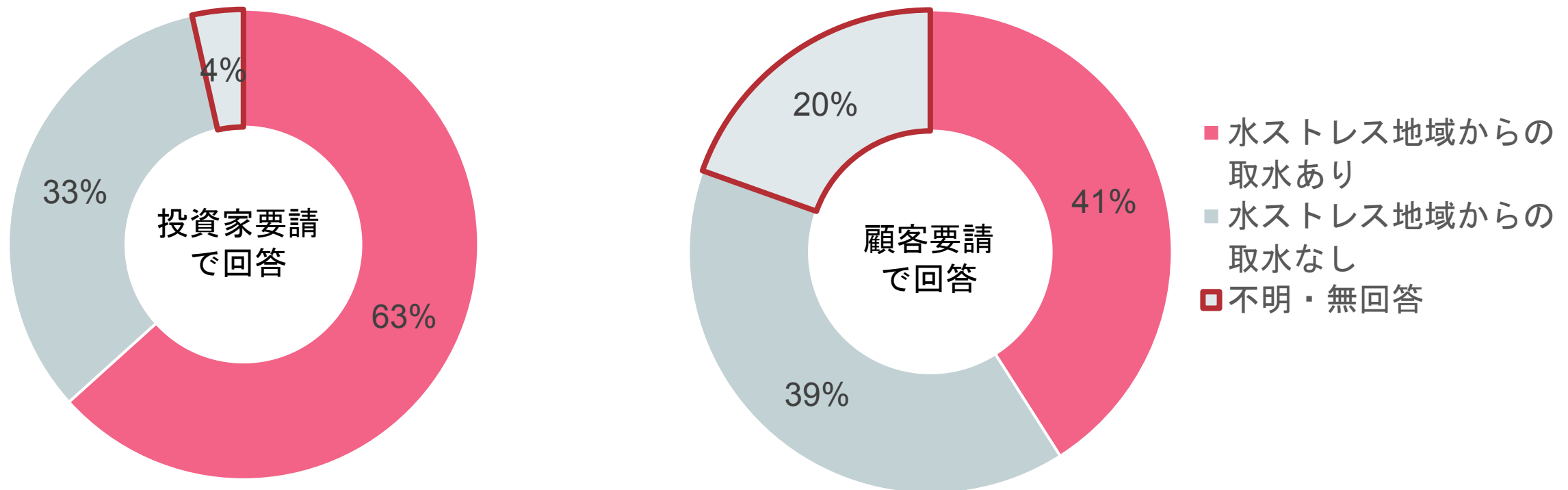


※指標6.4.2「水ストレスレベル：淡水資源量に占める淡水採取量の割合」は、利用可能なデータが少しはあるものの、進捗の査定ができる十分なデータが揃っていない。

取水は水ストレス下にある地域からのものです	水ストレス下にある地域からの取水の割合	前報告年との比較	確認に使ったツール	説明してください
選択肢: <ul style="list-style-type: none"> ● はい ● いいえ ● 不明 	選択肢: <ul style="list-style-type: none"> ● 1%未満 ● 1-10 ● 11~25 ● 26-50 ● 51-75 ● 76-99 ● 100% ● 不明 	選択肢: <ul style="list-style-type: none"> ● 大幅に少ない ● 少ない ● ほぼ同じ ● 多い ● 大幅に多い ● 初めての測定（前報告年なし） 	選択肢: <ul style="list-style-type: none"> ● 世界資源研究所(WRI)が発表したアキダクト（AQUEDUCT（水管、送水路）） ● 世界自然保護基金（WWF）水リスクフィルター（Water Risk Filter） ● その他、具体的にお答えください 	文章入力欄[最大5,000文字]

水ストレス下にある地域からの取水割合（W1.2d）

水ストレス地域からの取水の有無（日本企業）



顧客要請で回答している企業は、把握・開示がこれからの企業が多い。サプライチェーンでの水管理のためには、エンゲージメントでサプライヤーの行動を促すことが重要。

汚染-目に見えない危機

80%の廃水が
未処理

1/3

の経済成長が水質不良による潜在的な低下 世界銀行

水質汚染のリスクはバリューチェーン全体に 遍在しているが、認知度は低い

21%

回答した企業のうち、水質汚染リスクが事業に実質的な財務上または戦略上のリスクをもたらすと認識している企業の割合

23%

回答した企業のうち、水質汚濁に関する目標や目標を報告している企業は全体の1割程度

6%

の回答企業は、これらの目標の進捗状況をモニタリングし、報告している

水汚染ゼロのためのコミットメント

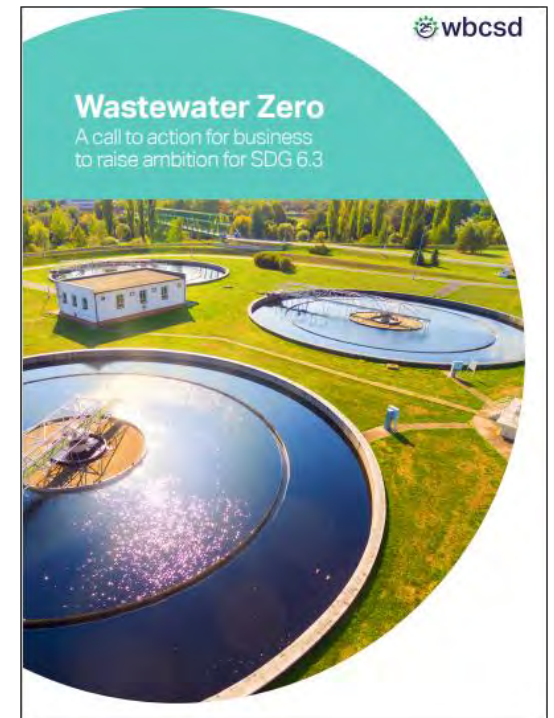


6 CLEAN WATER AND SANITATION



SDG 6.3

「2030年までに、汚染の減少、投棄の廃絶と有害な化学物・物質の放出の最小化、未処理の排水の割合半減及び再生利用と安全な再利用の世界的規模で大幅に増加させることにより、水質を改善する。」に整合するコミットメント



水汚染ゼロのためのコミットメント



1. Zero pollution:

すべての排水を処理し、危険値を下回るレベルで排水する。

2. Zero freshwater:

水の再利用やリサイクルを促進する

3. Low-carbon treatment:

低炭素な水処理プロセスを導入する

- 自社・サプライチェーン・環境への影響を考慮した、目標・タイムラインを設定。
- モニタリング状況や目標の設定等については、CDP質問書への回答によって報告・開示する。
- CDPが報告内容を取りまとめ、WBCSDサイト上にて、まとめデータを発表。

SDGsに注目する投資家



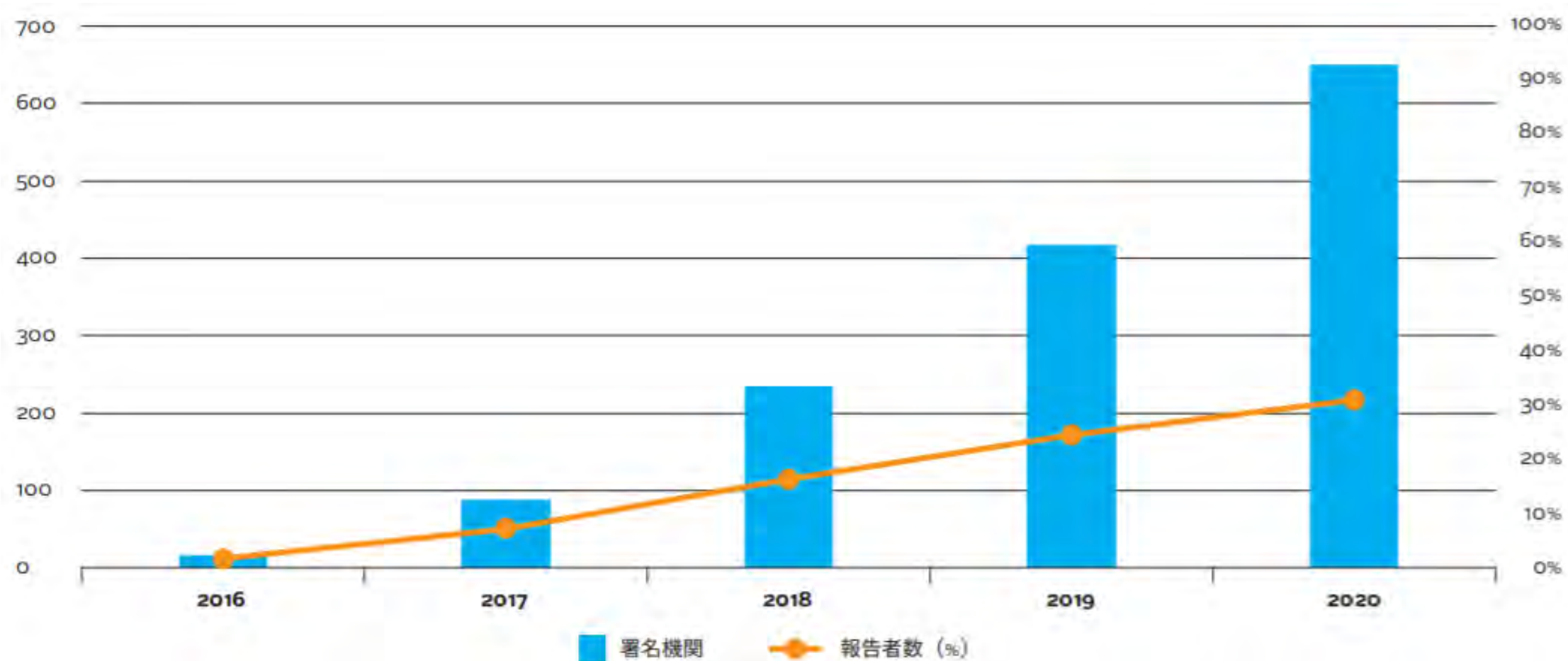
SDGsは、持続可能な開発のための普遍的な合意された枠組みであり共通の「目標」で、ESG課題の相互関係を示すのに有効である。

投資家にとって、SDGsは、現実の影響を理解し測定する方法を提供し、ESG要因を投資アプローチに取り入れる努力が、受益者が住みたい世界に繋がられる。

SDGsに注目する投資家



PRI（責任投資原則）への報告時に SDGs に言及した署名機関数とその割合



開示し

理解を深め

行動する





CDP Worldwide-Japan

Address: 東京都千代田区大手町2-2-1新大手町ビル3階



Tel: +81 (0)3 6225 2232



japan.cdp.net (日本語サイト)



お問い合わせ : japan@cdp.net